

# 日水協ビジョン（案）

安全・安心な水道を未来につなげる  
担い手として、新ステージへのチャレンジ

～水道の恩恵を享受する全ての人のために Challenges of JWWA～

平成28年 6月

✧ 公益社団法人 日本水道協会

## 日水協ビジョン策定にあたって

日本水道協会は、産・官・学の垣根を越えた協議機関として昭和7年5月に「水道の安全で安定した供給の継続を図り、国民生活に欠かさない水道の将来にわたる健全な発展を実現し、公衆衛生の向上に寄与すること」を目的として設置され、平成25年4月には公益法人制度改革の下、公益社団法人に移行しました。

本協会では、設立以来、「命の水」である水道の普及発展に努めるとともに、会員である水道事業者や民間企業のサポートをはじめ、国民の皆様が将来にわたって水道の恩恵を享受できるよう、水道の安定供給や安全性確保に組織一丸となって取り組んでいます。

日本の水道普及率は平成26年度末において97.8%に達し、ほぼ全ての国民が水道の恩恵を享受しています。さらに我が国は、安全でおいしい高品質な水を「蛇口から直接飲める数少ない国」として、世界に冠たる水道となっています。

しかしながら、現在の水道を取り巻く環境は、巨大地震や豪雨被害など自然災害への備え、耐震化を含めた老朽施設の更新や再構築、水質問題、人口減少社会への対応など、数多くの課題が山積しています。

これらの課題を解決し、水道事業を発展・進化させるためには、産・官・学のさらなる連携はもとより、今後、他業種との連携も必要となります。本協会では、このような将来の状況を見据え、今後、取り組むべき事項、方策を示すため「日水協ビジョン」を策定いたしました。

本ビジョンでは基本理念に「安全・安心な水道を未来につなげる担い手として、新ステージへのチャレンジ」を掲げ、10年先の日本水道

協会のあるべき姿を見据えています。

この、新ステージへのチャレンジとは、水道事業が未だ経験したことのない時代に直面する中、水道事業者のたゆまぬ努力により築き上げられた安全・安心な水道を未来につなげるため、日本水道協会はどのような担い手になるべきか、その課題に対し、現状の取組の枠を超えた「挑戦」の意識をもって向き合うことを意味しています。そして、日本水道協会のチャレンジが水道事業全体のレベルアップにつながり、「安全」で「強靱」な水道事業の「持続」につながるものと考えています。

日水協ビジョン策定にあたっては、本協会の若手からベテランまで、全職員が問題意識を持って、一丸となって検討を進めてまいりました。本協会にとって初めての試みとなりますので、不十分な面も多々あるかと思いますが、ビジョンの達成に向けて、職員一人一人がより一層明確な目的意識を持ち、他人の利益を重んじる「利他」の精神を発揮し、これからも全力で業務に取り組んでまいります。

なお、日水協ビジョンに（案）を付しているのは、水道を取り巻く環境の変化を的確に捉え、その時々により必要とする施策を柔軟に展開していくという日本水道協会の姿勢を表しています。

今後とも、関係者の皆様方の意見を頂きながら、本ビジョンを発展・進化させていきたいと考えておりますので、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

公益社団法人 日本水道協会

## 10年後の水道界を取り巻く環境

日本の総人口は、平成22年（1億2806万人）以降、減少に転じており、10年後の平成38年（1億1989万人）には、ピーク時から約6%減少すると推測されています。<sup>※1</sup>

人口減少社会の到来は、水道事業にも大きな影響を及ぼします。我が国の水道は、平成26年度には普及率が97.8%<sup>※2</sup>に達し、国民生活に欠かせない重要なライフラインとして、概ね国民皆水道と言えるところまで発展してきていますが、昭和30～40年代の高度成長期にかけて整備された施設が更新時期を迎えています。また、南海トラフ巨大地震、首都直下地震等の大規模災害の発生が懸念される中、施設の耐震化が急務となっています。

このような状況下において、人口減少は、そのまま水需要及び水道料金収入が減少することを意味し、水道料金収入を財源としている水道事業では、これら更新時期を迎えている施設の更新や維持管理、耐震化に必要な財源の確保が今後一層難しくなることが推測されます。

また、経営の合理化等の結果、水道事業に従事する職員数は年々減少しています。平成26年度の水道事業に従事する職員数は約46,000人<sup>※2</sup>まで減少し、今後も退職者数に見合う職員の補充は望めず、さらに減少することが推測されます。特に数名で運営している小規模水道事業体は、技術継承が困難になり、災害時の復旧体制はもとより事業継続そのものに支障をきたす状況も想定されます。

一方、海外の水事情に目を向けると、未だに約7.5億人<sup>※3</sup>が安全な飲料水にアクセスできない状況にあります。世界のトップランナーである我が国は、引き続きの国際貢献が求められることとなります。

時代の変化に伴い、今後さらに厳しい状況下に置かれる水道事業は新たなステージに突入します。未来に向かって水道事業を発展・進化させていくためには、水道に携わる全ての人々が、今までの概念にとらわれることなく、新たな発想でチャレンジし続けていかなければなりません。

※1 「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）

※2 「水道統計」（日本水道協会）

※3 国際連合開発計画

水道事業はさらに厳しい状況に置かれることになる。

未来に向かって水道事業を発展・進化させていくためには、  
新たな発想でチャレンジし続けていかなければならない。

## 基本理念

安全・安心な水道を未来につなげる担い手として、新ステージへのチャレンジ  
～水道の恩恵を享受する全ての人のために Challenges of JWVA～

## 基本理念を達成するための柱

### 水道界のサポーターとして

課題が山積する現在の水道事業において、会員ニーズに即したさらなる支援の強化を図ります。

### 水道界のスピーカーとして

国民生活に欠かせない水道事業の重要性を理解してもらうため、情報発信の強化を図ります。

### 水道界のシンクタンクとして

高度・複雑化する水道事業の課題を解決するため、調査・研究、人材開発の充実を図ります。



日水協ビジョンの推進により水道事業の  
「安全」「強靱」「持続」の確保に貢献

## 具体的行動方策

- ① 地震等災害対策に係る調査・研究の推進
- ② 安全で強靱な水道事業運営を確保・持続するための基盤強化支援
- ③ 会員ニーズに即した参加しやすい研修の実施
- ④ 検査・認証品の信頼性の維持・向上
- ⑤ 広く水道事業及び現状を理解してもらうためのPR活動の充実
- ⑥ 海外水道の情報収集・発信及び国際活動の展開
- ⑦ 水道事業に与える外的要因への迅速な対応
- ⑧ 社会背景に即した課題解決方策の提起
- ⑨ 研究開発体制の拡充
- ⑩ 世界基準の水道人を育成するための多角的な能力開発

# 現状の基本的取組

## 【災害対策の充実】

- ✓ 地震等緊急時対応特別調査委員会の設置・検討
- ✓ 水道耐震化推進プロジェクトの実施 等

## 【過去の震災から得た知見を踏まえた手引き等の改訂】

- ✓ 「地震等緊急時対応の手引き」「水道施設設計指針」「水道維持管理指針」「水道施設耐震工法指針」の改訂 等

## 【水道事業者への経営・技術的支援】

- ✓ 水道料金算定要領・水道統計・水道料金表の発刊、経営・技術相談の実施、経営アドバイザー事業の実施、簡易水道事業統合の支援（手引きの作成） 等

## 【水道事業の「広域化」及び「公民連携」の推進】

- ✓ 広域化及び公民連携情報プラットフォームの設置、官民連携推進協議会における事業者と民間業者とのマッチング 等

## 【水質の安全性確保及び向上のための支援】

- ✓ 水道水質検査結果の精度と信頼性保証の確保を図るための水道GLPの認定

## 【職層別・専門別研修の実施及び時宜を捉えた研修会の開催】

- ✓ 事務・技術各種研修会開催、地方公営企業会計制度等の見直しに関する研修会開催、最新発行図書の研修会開催
- ✓ 受講生へのアンケート実施によるニーズの把握 等

## 【良質な水道用資機材の供給を支える公平性・透明性の高い検査、品質認証の実施】

- ✓ 適正な検査・認証の実施、規定類の制定・改正
- ✓ 検査事業の有効性のPR
- ✓ 検査従事職員の教育・育成 等

## 【国民の理解・関心を高めるための積極的な広報活動、新たな視点からの広報の実施】

- ✓ 水道週間の実施、各種広報資料作成
- ✓ ホームページによる情報提供
- ✓ スポット広報（モールスケープ広告、新聞広告、ラジオCM、こども水道新聞）の実施 等

## 【海外水道の情報収集・発信、国際貢献・国際協力の推進】

- ✓ 国際会議での情報収集・発信
- ✓ 2018年IWA世界会議・展示会に向けた準備活動、ISO/TC224会議への人材派遣
- ✓ JICA研修生受入、開発途上国へのJICA専門家の推薦、IWAへの参画
- ✓ 各国水道協会連携会議の開催 等

## 【各種委員会・協議会における検討及び会員へのフィードバック】

- ✓ 常設調査委員会における検討、分野別協議会での情報交換
- ✓ 水道界を取り巻く環境の変化に応じた特別調査委員会を随時設置し、検討 等

## 【課題解決のきっかけとなる先進的取組の紹介】

- ✓ 水道イノベーション賞による先進事例の紹介、他事業者への波及促進 等

## 【全国会議の開催】

- ✓ 会員提出問題の討議、水道研究発表会の開催、水道界で高い関心が寄せられているテーマによるシンポジウムの開催 等

## 【関係機関・関係国会議員への要望活動】

- ✓ 運営会議委員による時宜を得た要望活動、水道関係議員連盟への働きかけ、地元選出議員への個別陳情の実施 等

## 【各種書籍、報告書等の発刊・改訂】

- ✓ 水道協会雑誌の充実
- ✓ 社会情勢の変化や法制度改正等を捉えた図書・規格書等の発刊・改訂（水道法逐条解説、水道事業における地方公営企業会計制度見直しの手引き 等）

## 【水道事業者や各種メーカー・団体等との共同による技術的課題の解決】

- ✓ プロジェクト推進室設置による機能的な業務執行体制の確保

## 【各種研修の実施、能力に応じた資格の認定】

- ✓ 国際研修（オーストラリア、インドネシア水道事業研修 等）の実施
- ✓ 配管設計及び配水管工技能講習会、水道施設管理技士資格認定・登録制度 等

## 新ステージへのチャレンジ

✓ 発生確率が高まっている巨大地震等への対応強化・充実

✓ 中小規模水道事業体の抱える経営・技術課題解決のための新たな支援体制の構築

✓ 広域化・公民連携を推進するための新たな支援体制の構築

✓ 少数精鋭時代を担う人材の育成

✓ 協会支部組織等のネットワークを活用した誰もが参加しやすい研修会の仕組み作り

✓ 世界水準を見据えた検査・認証システムへの進化

✓ 水道界の現状・課題を国民と共有可能にする戦略的な広報展開

✓ 優秀な人材を確保するための水道業界のPR強化・充実

✓ 海外水道協会との人的ネットワークを活用した実践的な連携体制の構築

✓ 各水道事業体の実状にあった先進事例等の収集及び発信強化

✓ 水道界の要望を早期に実現するための政府への効果的アプローチ手法の検討

✓ 社会的認知度向上による水道協会雑誌のステータスアップ

✓ 高度・複雑化する経営・技術課題に対応するための組織の強化・充実

✓ グローバル社会に対応できる人材の育成・確保

✓ 資格制度の進化

---

## 日水協ビジョン（案）

安全・安心な水道を未来につなげる担い手として、新ステージへのチャレンジ  
～水道の恩恵を享受する全ての人のために Challenges of JWWA～

発行日 平成28年6月

発行者 公益社団法人 日本水道協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9

TEL 03-3264-2281（代表）

URL <http://www.jwwa.or.jp>